

2015年11月5日

報道関係者 各位

ソニー損害保険株式会社

～2015年 全国カーライフ実態調査～

**【運転実態と車の維持費】**

車の維持費は例年より1ヵ月あたり1,000円以上安く ガソリン価格の下落が影響が  
「燃料代を負担に感じる」 昨年比13ポイントダウン

**【マイカーと搭載設備】**

「マイカーは軽自動車」が4割強 5年間で14ポイントの上昇  
普及が進むアイドリングストップ機能 自家用車の4台に1台が搭載

**【マイカーの買替え意向】**

3人に1人が「次のマイカーは軽自動車」  
マイカーが軽自動車の人の6割半は「次も軽自動車を購入」  
軽自動車を選ぶ理由「自動車税が割安」「運転しやすい」「燃費が良い」  
ガソリン自動車の人気上昇 次には買いたいのは「ガソリン自動車」3割半  
ハイブリッド自動車を逆転

**【グリーン化税制】**

「軽自動車税の増税」8割超が認知 「古い車の自動車税増税」は5割半  
グリーン化税制の趣旨に「納得できる」が6割強  
グリーン化税制の影響 「エコカーの購入意向UP」5割半 節約意識の高まりも

**【安全運転と運転支援】**

3人に2人が自動車事故の経験者  
車社会で恐怖を感じることに「薬物運転」と「飲酒運転」が最上位  
車に付けたい運転支援システムは「衝突防止装置」と「歩行者検知システム」  
もしも人の運転より安全な自動運転車が実現したら？「利用したい」8割半  
自動車保険は「安さ」だけでなく「事故対応力」も重要

ソニー損害保険株式会社（URL：<http://www.sonysonpo.co.jp/>） 本社：東京都大田区蒲田5-37-1 アロマスクエア11F、代表取締役社長 丹羽淳雄）は、2015年9月12日～9月18日の7日間、自家用車を所有し、月に1回以上車を運転する18歳～59歳の男女に対し、全国カーライフ実態調査をインターネットリサーチで実施し、1,000名の有効回答を得ました。

## アンケート総括

### 【運転実態と車の維持費】

- ◆ 年間走行距離 7,000km 以下の人が 6 割 1 ヶ月あたりの維持費は平均 14,300 円
- ◆ 車の維持費は例年より 1 ヶ月あたり 1,000 円以上安く ガソリン価格の下落が影響か
- ◆ 「燃料代を負担に感じる」 昨年比 13 ポイントダウン
- ◆ 理想の燃費は 26.4km/l 実際の燃費は 15.0km/l

自家用車を所有し、月に 1 回以上車を運転する 18 歳～59 歳の男女 1,000 名に対し、年間の走行距離を聞いたところ、「3,000km 以下」が 7.6%、「5,000km 以下」が 27.1%、「7,000km 以下」が 24.7%で、年間走行距離が 7,000km 以下までの方が合計で 6 割(59.4%)となり、年間走行距離の平均は 7,073km となりました。

男女別に年間走行距離の平均をみると、男性は 7,492km、女性は 6,654km となり、男性のほうが女性よりも走行距離が長い傾向がみられました。(図 1)

次に、1 ヶ月あたりの車の維持費(※1)を聞いたところ、「5,000 円～10,000 円未満」(29.1%)と「10,000 円～15,000 円未満」(26.2%)を中心に回答が集まり、平均額は 14,300 円(※2)となりました。(図 2)

また、車の維持費の平均額を過去 5 回(2010 年～2014 年)の調査結果と比較すると、今年は例年に比べて維持費が 1,000 円以上減少しており、維持費が少なくすんでいる傾向にあることがわかりました。(図 3)

(※1)：保険料、ガソリン代・燃料代、駐車場代、修理代等のことで、税金、ローン返済、有料道路通行料は除きます。

(※2)：100 円未満は四捨五入

続いて、車の諸経費で負担に感じるものを複数回答で聞いたところ、「車検・点検費」が 70.8%で最も高く、次いで「自動車税・軽自動車税」が 61.6%、「ガソリン代・燃料代」が 56.8%で続きました。(図 4)

「ガソリン代・燃料代」を負担に感じる割合は、過去 5 回(2010 年～2014 年)の調査結果で上昇傾向がみられていましたが、今年は下落に転じ、昨年から 13.3 ポイント下がりました(70.1%→56.8%)。2015 年はガソリン価格が下落傾向となった影響で、燃料代の負担感がやわらいだのではないのでしょうか。車の維持費が少なくすんでいる傾向にも、ガソリン価格の影響があったと考えられそうです。(図 5)

次に、車の理想の燃費について聞いたところ、「20km/l～25km/l 未満」が 22.4%で最も多く、「わからない」(14.7%)と答えた方を除いた平均値は 26.4km/l となりました。同様に、所有している車の実際の燃費について聞いたところ、「10km/l～15km/l 未満」が 33.8%で最も多く、「わからない」(17.0%)と答えた方を除いた平均値は 15.0km/l となりました。(図 6, 7)

理想の燃費と実際の燃費の平均値を過去 2 回(2011 年・2013 年)の調査結果と比較すると、どちらも上昇傾向がみられ、理想の燃費は 2011 年から 2.8km/l の上昇(23.6km/l→26.4km/l)、実際の燃費は 2.5km/l の上昇(12.5km/l→15.0km/l)となりました。実際の燃費が向上している一方で、ドライバーが理想とする水準も高くなっている様子が見えられました。(図 8)

**【マイカーと搭載設備】****◆ 「マイカーは軽自動車」が4割強 5年間で14ポイントの上昇****◆ 普及が進むアイドリングストップ機能 自家用車の4台に1台が搭載**

全回答者1,000名に対し、主に運転している車のボディタイプを聞いたところ、「軽自動車」が最も多く42.5%、次いで、「コンパクトカー」が16.6%、「ミニバン」が15.6%、「ステーションワゴン」が8.4%、「セダン」が7.8%で続きました。（図9）

「軽自動車」を運転している割合を過去5回（2010年～2014年）の調査結果と比較すると、昨年からは2.5ポイントの上昇（40.0%→42.5%）、5年前からは14.2ポイントの上昇（28.3%→42.5%）となっており、軽自動車の人気上昇し続けていることがわかりました。5年間でおよそ1割半、軽自動車がシェアを広げたようです。直近では、40代男性や50代男性で「軽自動車」を運転している割合が大きく上昇し、40代男性は昨年からは10.4ポイントの上昇（24.0%→34.4%）、50代男性は18.4ポイントの上昇（17.6%→36.0%）となりました。（図10）

次に、主に運転している車の燃料（エンジン）タイプを聞いたところ、「ガソリン自動車」が89.3%、「ハイブリッド自動車（HV）」が6.1%となりました。（図11）

続いて、主に運転している車に搭載されている機器や機能について聞いたところ、「カーナビ」の搭載率（「搭載している」と回答した割合）は66.9%、「ETC」は59.7%、「アイドリングストップ機能」は24.0%、「ドライブレコーダー」は10.6%、「衝突防止装置」は10.7%となりました。（図12）

アイドリングストップ機能を「搭載している」割合を過去4回（2011年～2014年）の調査結果と比較すると、昨年からは6.9ポイントの上昇（17.1%→24.0%）となっており、徐々にアイドリングストップ機能の普及が進んでいる様子がみられました。（図13）

**【マイカーの買替え意向】****◆ 3人に1人が「次のマイカーは軽自動車」****◆ マイカーが軽自動車の人の6割半は「次も軽自動車を購入」****◆ 軽自動車を選ぶ理由「自動車税が割安」「運転しやすい」「燃費が良い」**

10代・20代は「軽自動車のデザイン性」も評価する傾向

**◆ ガソリン自動車の人気上昇 次には買いたいのは「ガソリン自動車」3割半**

ハイブリッド自動車を逆転

**◆ 車の買替え予算 平均176万円 軽自動車の予算は平均111万円**

全回答者1,000名に対し、今後車を買替える予定について聞いたところ、「半年以内」が2.4%、「1年以内」が5.5%、「2年以内」が9.5%、「3年以内」が9.3%、「5年以内」が14.0%となり、今後5年以内を買替える予定のある割合は合計で40.7%となりました。また、「買替えはせず、手放す予定」は4.6%となっています。（図14）

車を買替える予定がある方954名に対し、車を買替える時に「新車」と「中古車」のどちらで購入を考えているかを聞いたところ、「新車」が54.3%、「中古車」が21.1%、「わからない」が24.6%となりました。（図15）

続いて、次に車を買替える時に購入したいボディタイプを聞いたところ、「軽自動車」が32.0%で最も多く、「ミニバン」が14.5%、「コンパクトカー」が11.5%で続きました。

主に運転している車のボディタイプ別にみると、同じボディタイプの車に買替えたいと考えている割合は軽自動車に乗っている方が最も高く 64.1%となっています。また、普通乗用車のセダンに乗っている方の 1 割強 (11.7%)、コンパクトカーに乗っている方の 1 割 (9.9%) が、次の買替えで「軽自動車」への乗替えを検討しているようです。(図 16)

それでは、軽自動車が人気となっている理由はどんなところにあるのでしょうか。

次に車を買替える時に軽自動車を購入したい方 305 名に対し、軽自動車を選ぶ理由を聞いたところ、「自動車税が割安だから」が 72.8%で最も高く、次いで、「小回りが利くなど、運転しやすいから」が 69.5%、「燃費が良いから」が 57.4%、「本体価格が安いから」が 46.9%、「十分な走行性能だから」が 32.5%、「室内空間が十分に広いから」が 20.7%で続きました。税金や燃費、本体価格など、かかるお金が安くすむことに加え、運転のしやすさや走行性能、室内空間などの性能面にも魅力を感じている様子が見られました。

男女別にみると、男性は「燃費が良いから」が 63.0%で女性より高く、女性は「小回りが利くなど、運転しやすいから」が 75.1%で男性よりも高くなりました。

年代別にみると、10代・20代では「小回りが利くなど、運転しやすいから」が 80.8%、「デザインが良いから」が 23.3%と、それぞれ他の年代よりも高くなりました。若年層は運転しやすさに加え、軽自動車のデザイン性も評価しているようです。(図 17)

さらに、次に車を買替える時に購入したい燃料(エンジン)タイプを聞いたところ、「ガソリン自動車」が 34.0%で、「ハイブリッド自動車(HV)」が 30.4%となりました。(図 18)

「ガソリン自動車」に買替えを考えている割合を過去 5 回(2010 年～2014 年)の調査結果と比較すると、昨年比で 4.1 ポイントの上昇(29.9%→34.0%)となり、調査開始してから初めて、ガソリン自動車がハイブリッド自動車を上回る結果となりました。ハイブリッド自動車よりも車両価格が相対的に安いことや、エンジンを小型化し、燃費を向上させるダウンサイジングターボエンジンをはじめとする環境技術が進歩してきたことなどから、ガソリン自動車への買替えを考えている方が増えているのではないのでしょうか。(図 19)

車を買替える予定がある方 954 名に対し、車を買替える際の車体本体価格(※諸経費：自動車税、自動車取得税、自動車重量税などは除く)の予算を聞いたところ、「100 万円～150 万円未満」が 20.3%で最も多くなり、「150 万円～200 万円未満」は 16.9%、「50 万円～100 万円未満」は 14.9%となっています。「わからない」(12.8%)と回答した方を除いた平均予算額は 175.7 万円となりました。(図 20)

買替えを考えている車のタイプ別に平均予算をみると、軽自動車の購入を考えている層の平均予算は 110.5 万円、コンパクトカーの購入を考えている層の平均予算は 158.2 万円となりました。

また、ガソリン自動車の購入を考えている層の平均予算は 147.1 万円、ハイブリッド自動車の購入を考えている層は 209.9 万円となりました。(図 21)

### 【グリーン化税制】

◆ 「軽自動車税の増税」8 割超が認知 「古い車の自動車税増税」は 5 割半

◆ グリーン化税制の趣旨に「納得できる」が 6 割強

中古ガソリン車を買いたい層の過半数は「グリーン化税制に納得できない」と回答

◆ グリーン化税制の影響 「エコカーの購入意向 UP」5 割半 節約意識の高まりも

今年、「グリーン化税制」として、自動車関連の税制に変更がありました。これらの変更は、

どの程度認知されているのでしょうか。また、マイカーの買替えやカーライフにどのような影響を及ぼしたのでしょうか。グリーン化税制について、質問を行いました。

まず、全回答者 1,000 名に対し、グリーン化税制について知っていたか聞いたところ、【軽自動車税の増税】については、「変更の内容を知っていた」が 50.4%、「変更されたことは知っていたが、内容は知らなかった」が 30.6%となり、合計で『変更されたことを知っていた』（「変更の内容を知っていた」と「変更されたことは知っていたが、内容は知らなかった」の合計）割合は 81.0%となりました。また、【古い車の自動車税の増税】では、「変更の内容を知っていた」が 27.4%、『変更されたことを知っていた』は 56.0%となり、【エコカー減税の基準の厳格化】では、「変更の内容を知っていた」が 22.3%、『変更されたことを知っていた』は 54.1%となりました。いずれも半数以上の方が変更を認知していましたが、軽自動車税の増税については 8 割以上の方が認知しており、注目を集めた変更だったことがうかがえました。（図 22）

グリーン化税制は、“地球環境保護の観点から、環境性能の高い車に対しては減税し、一方で環境負荷の大きい車に対しては税を重くする”といった趣旨にもとづいて行われました。そこで、【グリーン化税制の趣旨には、納得できる】かどうかを聞いたところ、『あてはまる』（「非常にあてはまる」と「ややあてはまる」の合計）が 62.5%、『あてはまらない』（「全くあてはまらない」と「あまりあてはまらない」の合計）が 37.5%となりました。環境保護のため、環境性能で税率を変えるという趣旨には納得できる方が多数派となりました。

買替えを考えている車のタイプ別にみると、ガソリン自動車の中古購入を考えている層は『あてはまる』が 41.8%、『あてはまらない』が 58.3%で、納得できない方が多数派となりました。（図 23）

買替えへの影響については、【（グリーン化税制で税負担が軽くなる）環境性能が高いエコカーの購入意向が高くなった】かどうかを聞いたところ、『あてはまる』が 53.8%、【（グリーン化税制による増税や、減税の基準の厳格化により）車の購入をためらった】では『あてはまる』が 37.3%となりました。半数以上のドライバーに環境性能の高いエコカーへの興味を抱かせた一方で、購入をためらうようになった方も 4 割弱と少なくありませんでした。（図 24）

カーライフへの影響については、【節約のため、エコドライブ（燃費がよい運転）を心がけたい】かどうかを聞いたところ、『あてはまる』が 84.1%、【節約のため、自動車保険の見直しをしたい】では『あてはまる』が 63.5%となりました。グリーン化税制により、ドライバーの節約意識が高まっているようです。（図 25）

### 【安全運転と運転支援】

- ◆ 3 人に 2 人が自動車事故の経験者
- ◆ 車社会で恐怖を感じることに「薬物運転」と「飲酒運転」が最上位
- ◆ 「車のハッキングや遠隔操作」ニュースなどでドライバーの 1 割半が恐怖
- ◆ 車に付けたい運転支援システムは「衝突防止装置」と「歩行者検知システム」
- ◆ もしも人の運転より安全な自動運転車が実現したら？「利用したい」8 割半
- ◆ 自動車保険は「安さ」だけでなく「事故対応力」も重要

全回答者 1,000 名に対し、自分が運転している時に自動車事故に遭った経験があるか聞いたところ、「経験がある」が 62.6%となりました。また、この 1 年で事故の経験があるかについても聞いたところ、「経験がある」が 8.6%となりました。（図 26）

次に、車社会で過ごすなかで、最近恐怖を感じることに（※体験したことに限らず、ニュースな

どで知ったことを含む)は何か聞いたところ、「薬物(危険ドラッグなど)を服用した運転者による事故」が最も多く68.9%、「飲酒運転による事故」が68.3%と同程度の割合で続きました。薬物運転や飲酒運転などの危険運転に巻き込まれないか、不安を感じている方が多いようです。以下、「高齢者・高齢運転者との事故」(60.2%)や「スマホ・携帯電話のながら運転による事故」(58.9%)、「居眠り運転による事故」(57.2%)、「ブレーキとアクセルの踏み間違いによる事故」(55.3%)が過半数の割合で続きました。そのほか、「運転中の自然災害(ゲリラ豪雨・台風など)との遭遇」は38.6%が、「車のハッキング・遠隔操作」は13.7%が恐怖を感じているようでした。(図27)

続いて、安全運転に役立つ先進的な“運転支援システム”について、車に付けたいと思うものを複数回答で聞いたところ、「前方の車と衝突しそうになったらブレーキが作動する装置(衝突防止装置)」(61.8%)と「夜間など視界が悪いときに、前方の歩行者を検知してお知らせする装置(歩行者検知システム)」(60.1%)が6割台、「車線変更するときに死角に車がいたらお知らせする装置」(45.2%)が4割台、「発進時にアクセルとブレーキの踏み間違いを防止する装置」(35.8%)と「歩行者と衝突したときの歩行者用エアバッグ」(34.3%)、「渋滞時などに前方の車に自動で追従する装置」(32.4%)が3割台で続きました。緊急時に役立つ安全装置や視界を補助する機能を持つ運転支援システムを付けたいと思う方が多いようです。(図28)

次に、もしも自動運転車(自動で走行できる車)が実現したら、自動運転機能を利用したいと思うかを聞いたところ、「非常に利用したいと思う」が24.3%、「やや利用したいと思う」が48.0%で、合わせて72.3%の方が『利用したい』と回答しました。

さらに、もしも自動運転が“人が運転するよりも安全”だと証明されたら、利用したい気持ちはどの程度になるか聞いたところ、「非常に利用したいと思う」が41.2%、「やや利用したいと思う」が43.7%となり、合わせて『利用したい』は84.9%となりました。人が運転するよりも安全な自動運転機能がもしも登場したら、8割半のドライバーは利用したいと考えていることがわかりました。(図29)

また、安全運転に関連して、自動車保険(任意保険)を選ぶ時に重視するポイントはどこか聞いたところ、「事故時の対応力」(71.2%)と「保険料(安さ)」(70.5%)が7割台、「ロードサービスの充実度(パンク、キー閉じ込み、バッテリー上がり時など)」(45.5%)が4割台、「保険会社の知名度・信用度」(30.7%)が3割台で続きました。保険料が安いことだけでなく、事故が起こった際の対応力も重要なポイントだと考えられていることがわかりました。(図30)

※過去5回の調査結果の詳細は、下記URLにて公開しています。

・2010年 全国カーライフ実態調査

前編 [http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2010/10/20101028\\_1.html](http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2010/10/20101028_1.html)

後編 [http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2010/11/20101125\\_1.html](http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2010/11/20101125_1.html)

・2011年 全国カーライフ実態調査

前編 [http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2011/11/20111121\\_1.html](http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2011/11/20111121_1.html)

後編 [http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2011/11/20111124\\_1.html](http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2011/11/20111124_1.html)

・2012年 全国カーライフ実態調査

前編 [http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2012/11/20121126\\_1.html](http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2012/11/20121126_1.html)

後編 [http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2012/12/20121220\\_1.html](http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2012/12/20121220_1.html)

・2013年 全国カーライフ実態調査

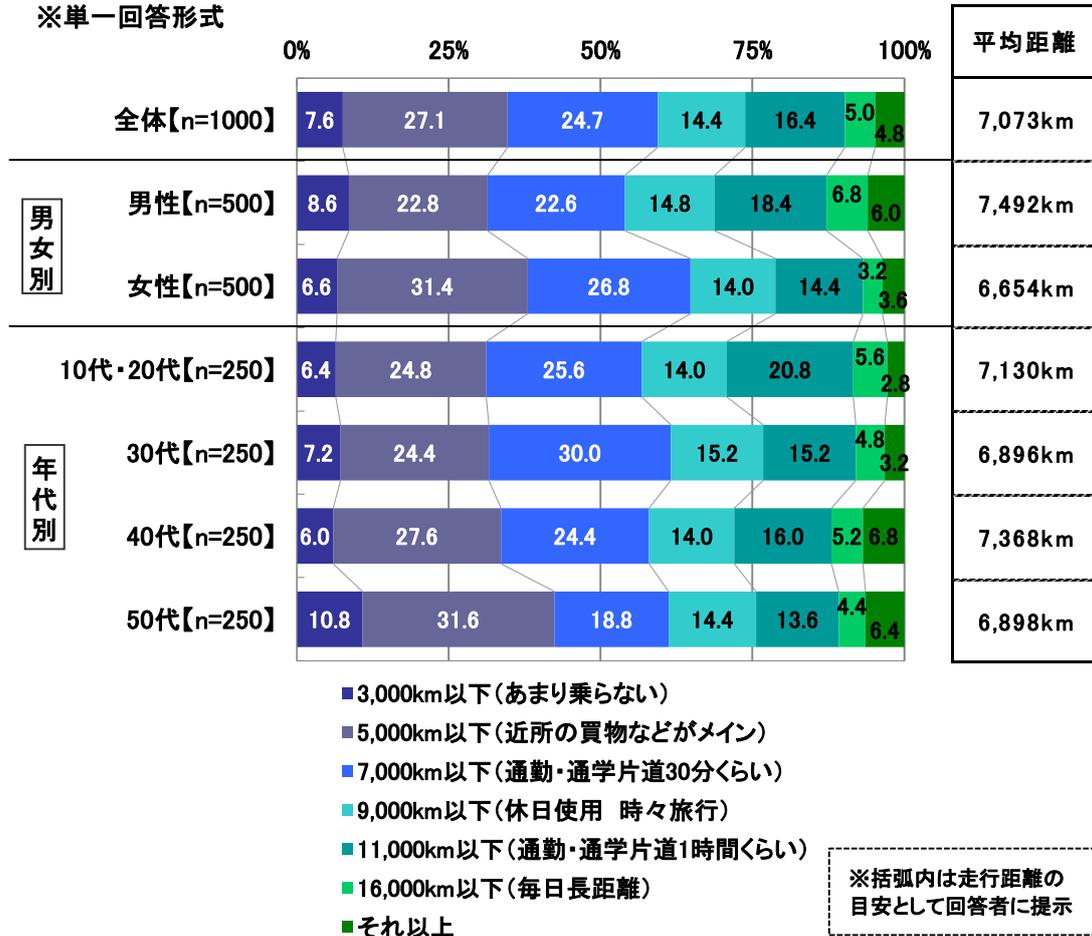
[http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2013/11/20131125\\_01.html](http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2013/11/20131125_01.html)

・2014年 全国カーライフ実態調査

[http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2014/09/20140930\\_01.html](http://from.sonysonpo.co.jp/topics/pr/2014/09/20140930_01.html)

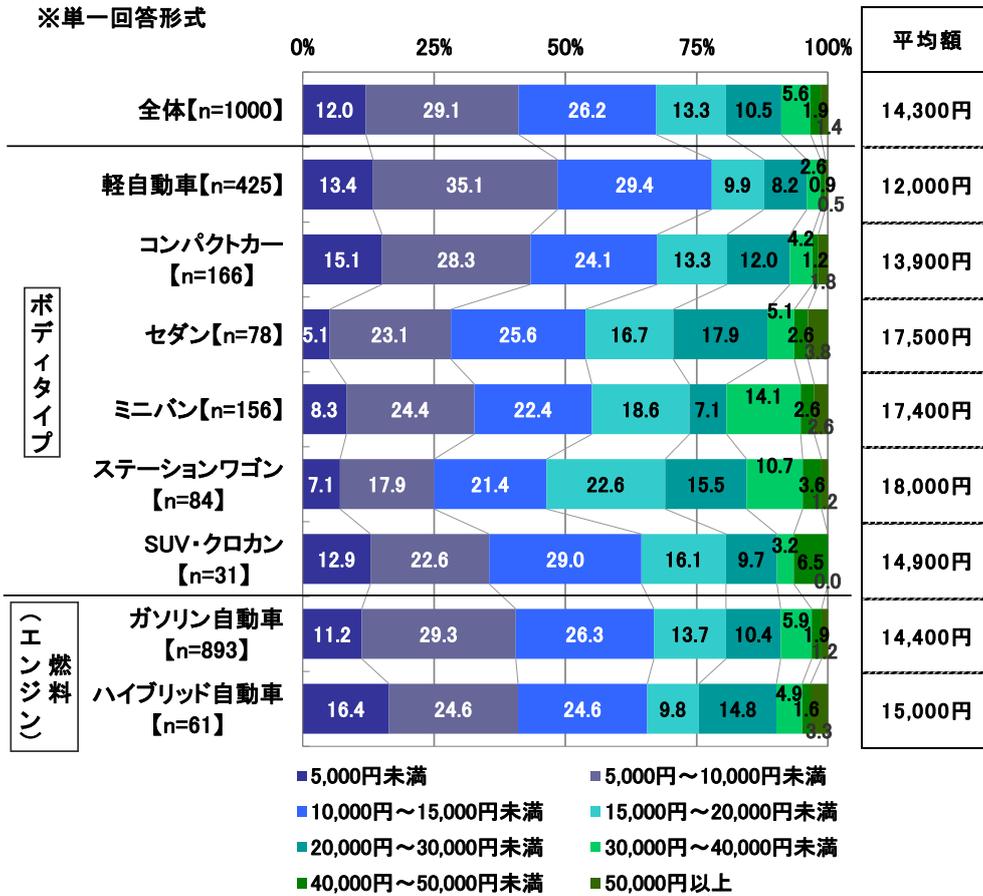
(図 1)

◆年間の走行距離  
※単一回答形式



(図 2)

◆1か月あたりの維持費  
※単一回答形式



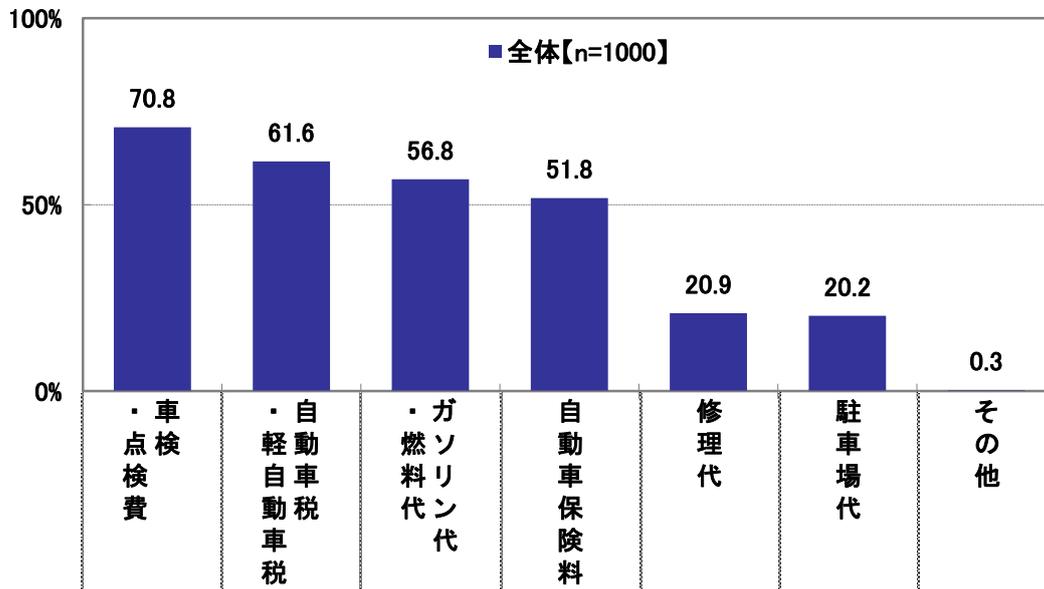
(図 3)

◆1か月あたりの維持費の平均額  
【2010年～2015年：経年比較】  
※単一回答形式より集計



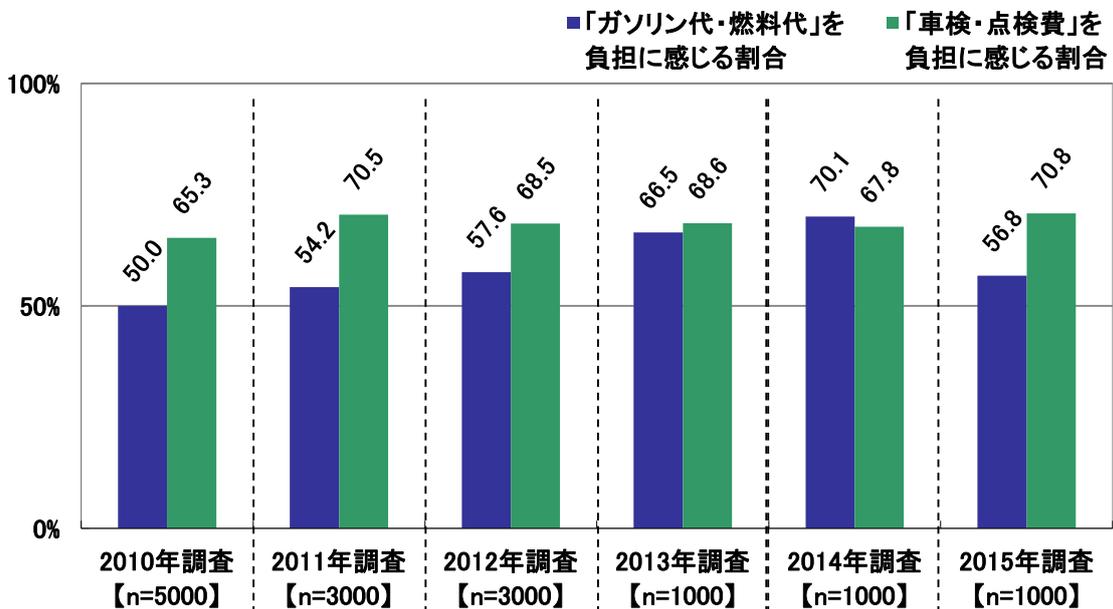
(図 4)

◆車の諸経費で負担に感じるもの  
※複数回答形式



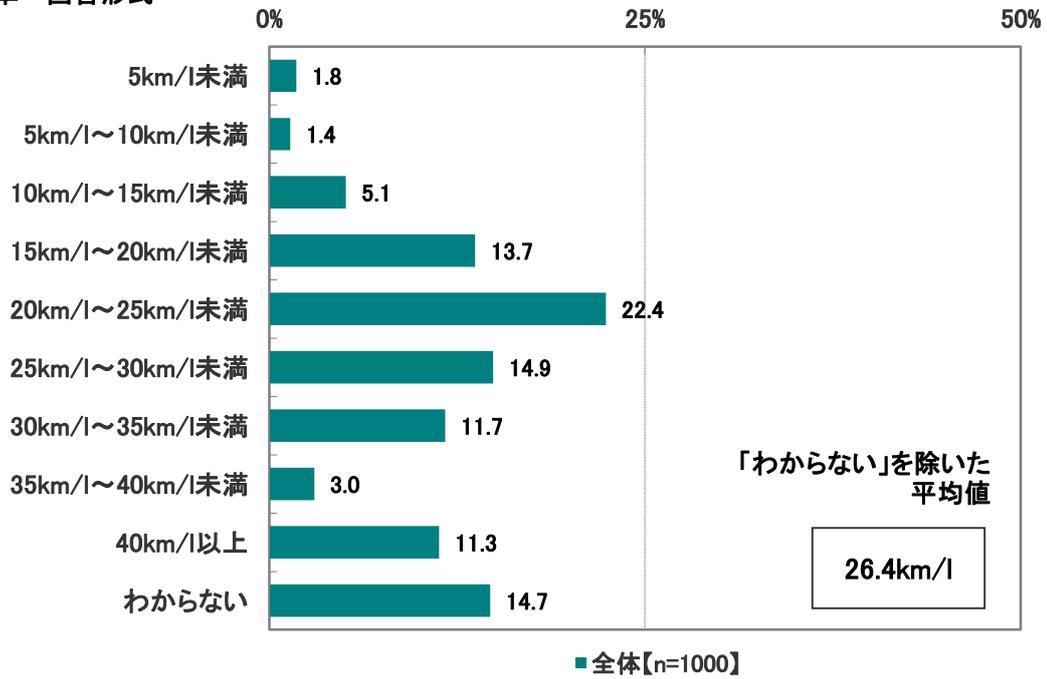
(図 5)

◆車の諸経費で「ガソリン代・燃料代」「車検・点検費」を負担に感じる割合  
【2010年～2015年:経年比較】  
※複数回答形式より抜粋



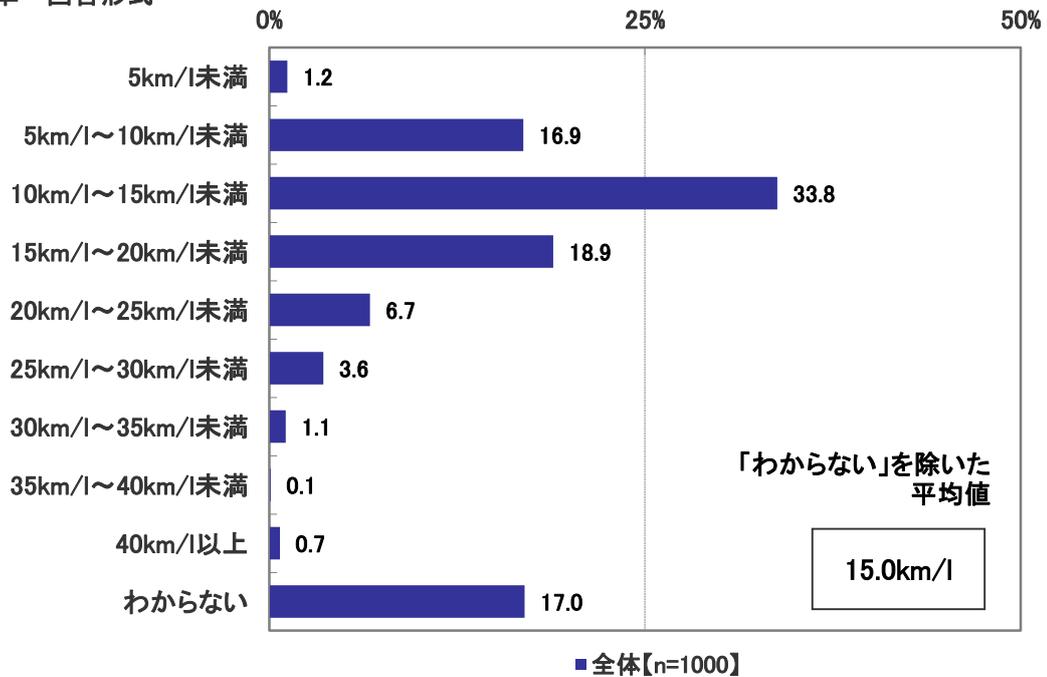
(図 6)

◆理想の燃費  
※単一回答形式



(図 7)

◆実際の燃費  
※単一回答形式

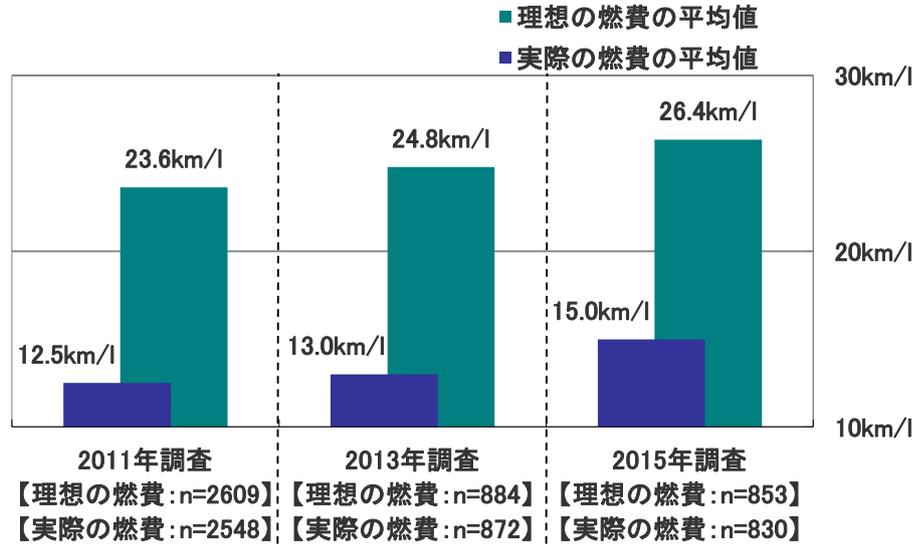


(図 8)

◆理想の燃費と実際の燃費

【2011年・2013年・2015年：経年比較】

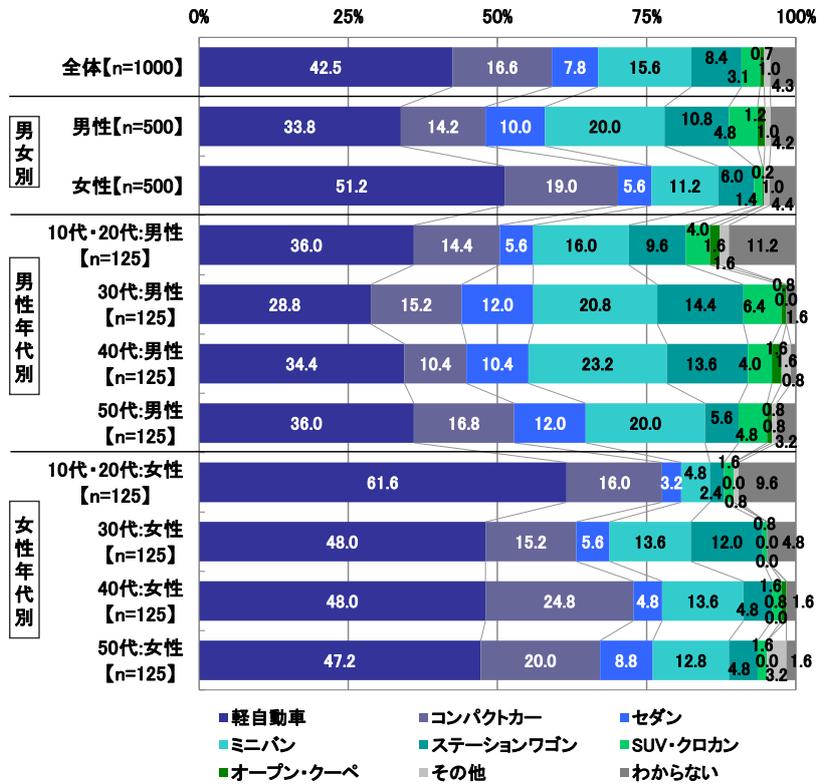
※単一回答形式より集計 ※対象：燃費がわからない人を除く



※2010年・2012年・2014年調査では、該当設問なし

(図 9)

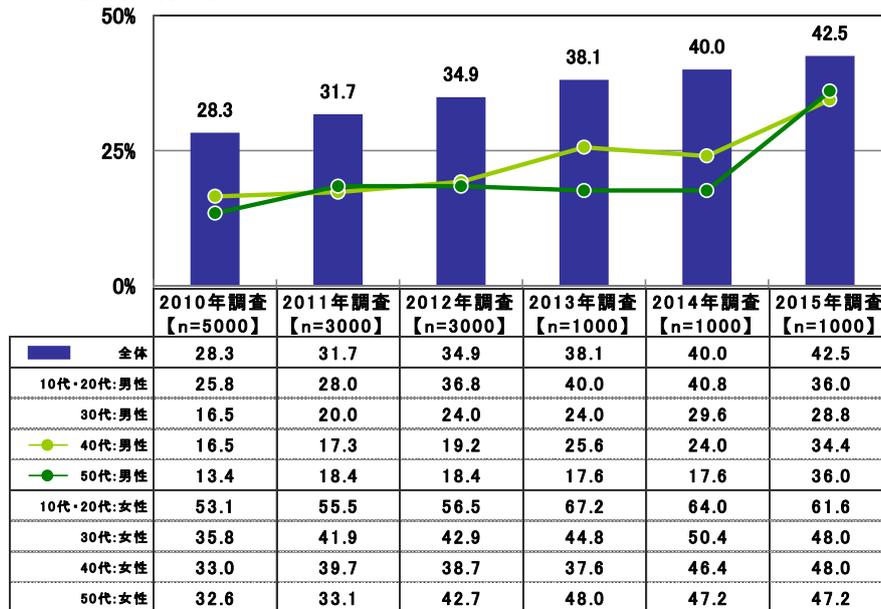
◆主に運転している車のボディタイプ  
※単一回答形式



(図 10)

◆主に運転している車が「軽自動車」である割合  
【2010年～2015年:経年比較】

※単一回答形式より抜粋



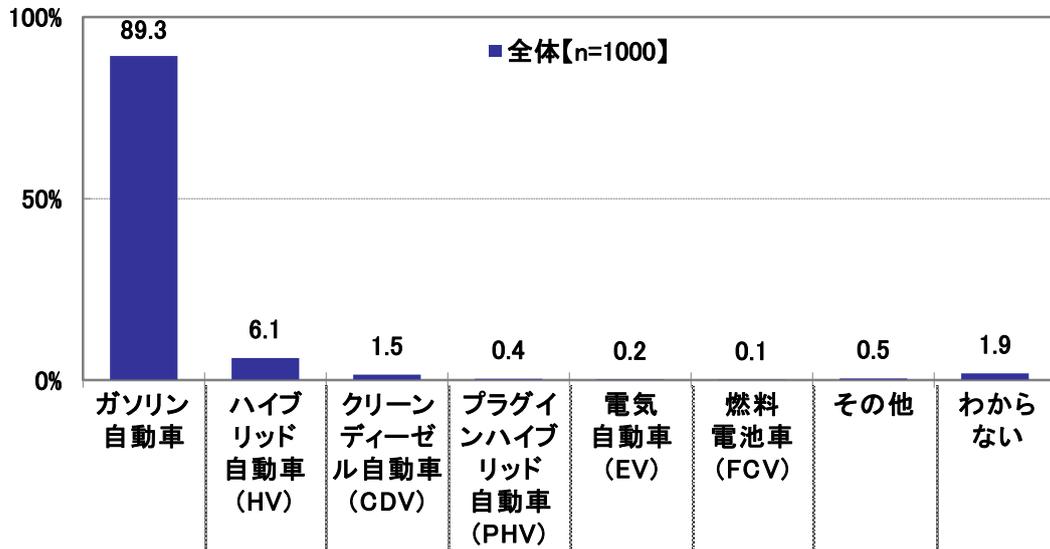
※n数は各性年代で均等

(%)

※2015年調査から当該設問に「わからない」の選択肢を追加している

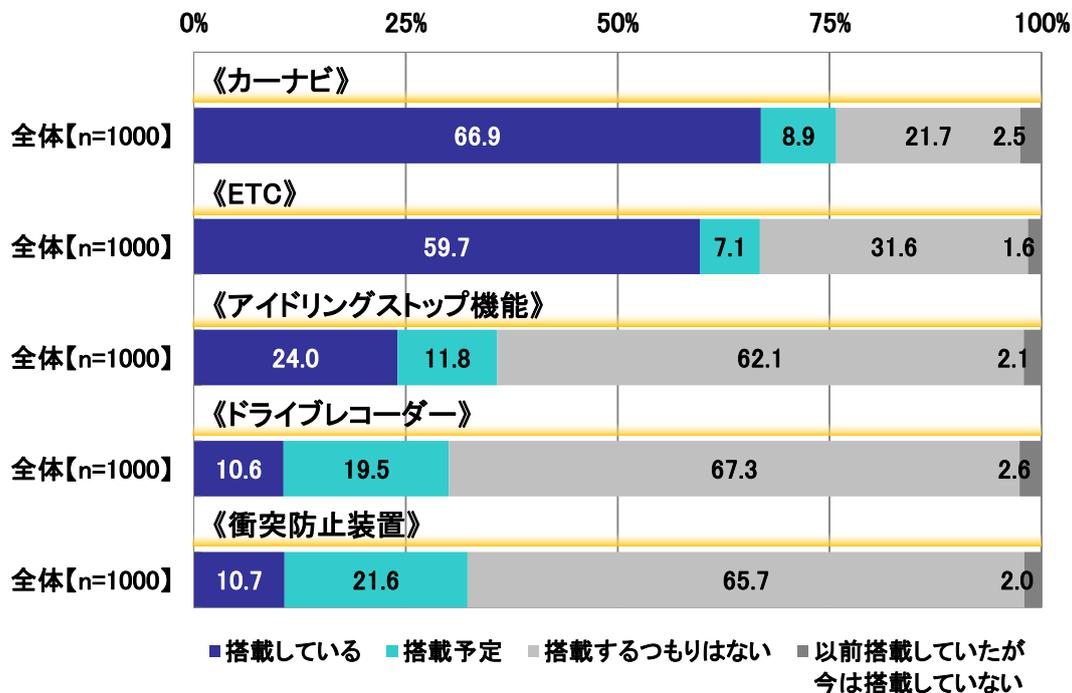
(図 11)

◆主に運転している車の燃料(エンジン)タイプ  
 ※単一回答形式



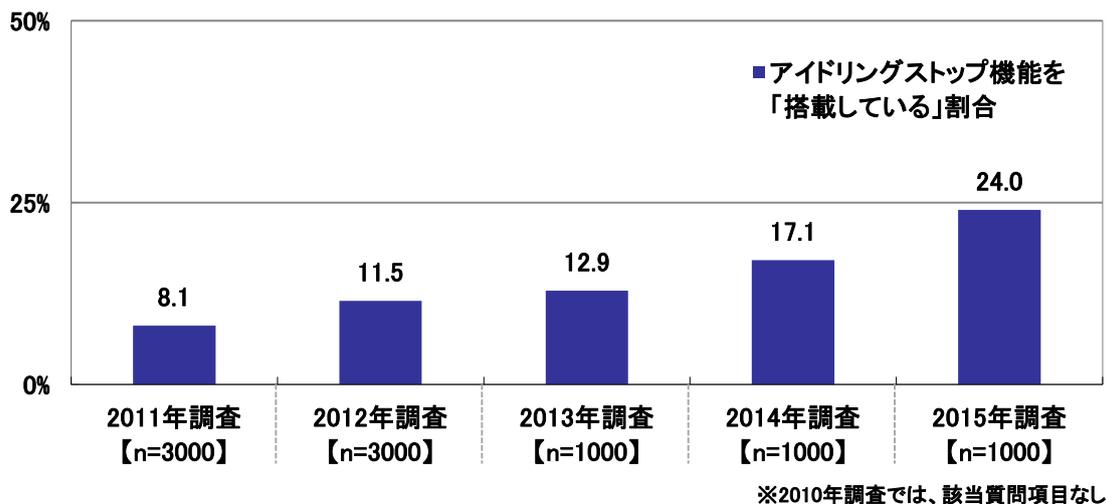
(図 12)

◆主に運転している車に搭載している機器・機能  
※各単一回答形式



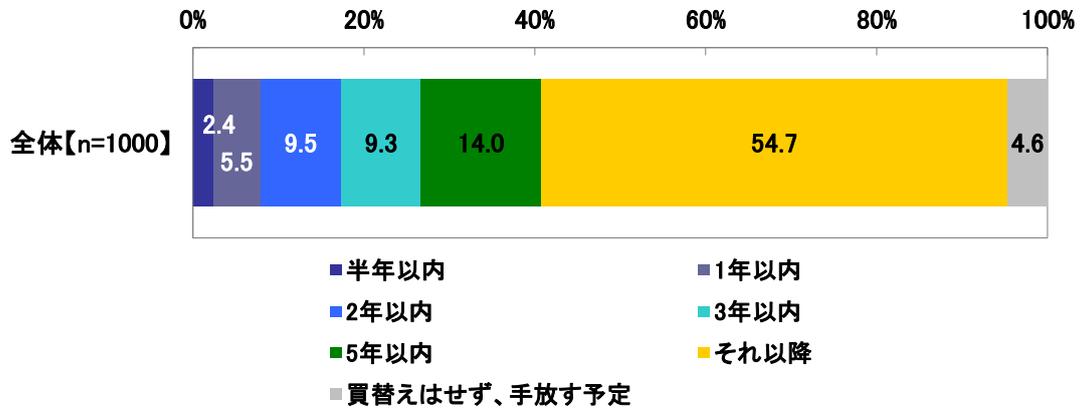
(図 13)

◆主に運転している車にアイドリングストップ機能を「搭載している」割合  
【2011年～2015年：経年比較】  
※単一回答形式より抜粋



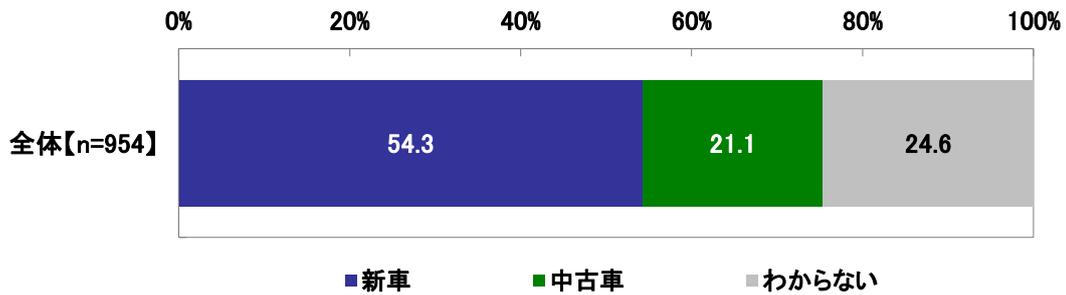
(図 14)

◆買替え予定の時期  
※単一回答形式



(図 15)

◆次に車を買替える時に、「新車」と「中古車」どちらで購入を考えているか  
※単一回答形式  
※対象: 車を買替える予定がある人

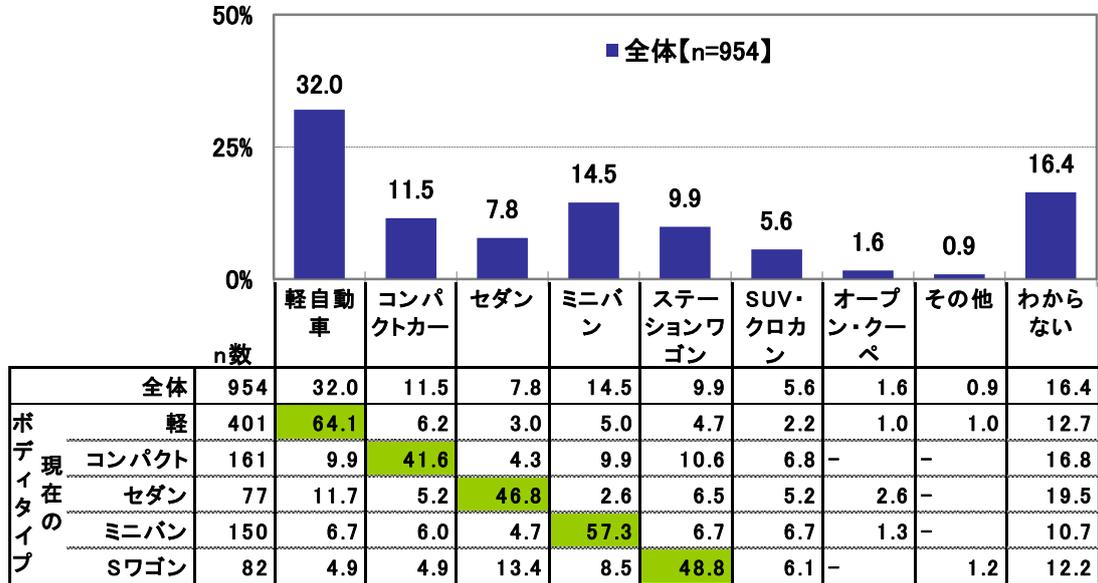


(図 16)

◆次に車を買替える時に購入したい車のボディタイプ

※単一回答形式

※対象:車を買替える予定がある人



※ ...同じボディタイプに買替えたいと考えている割合

(%)

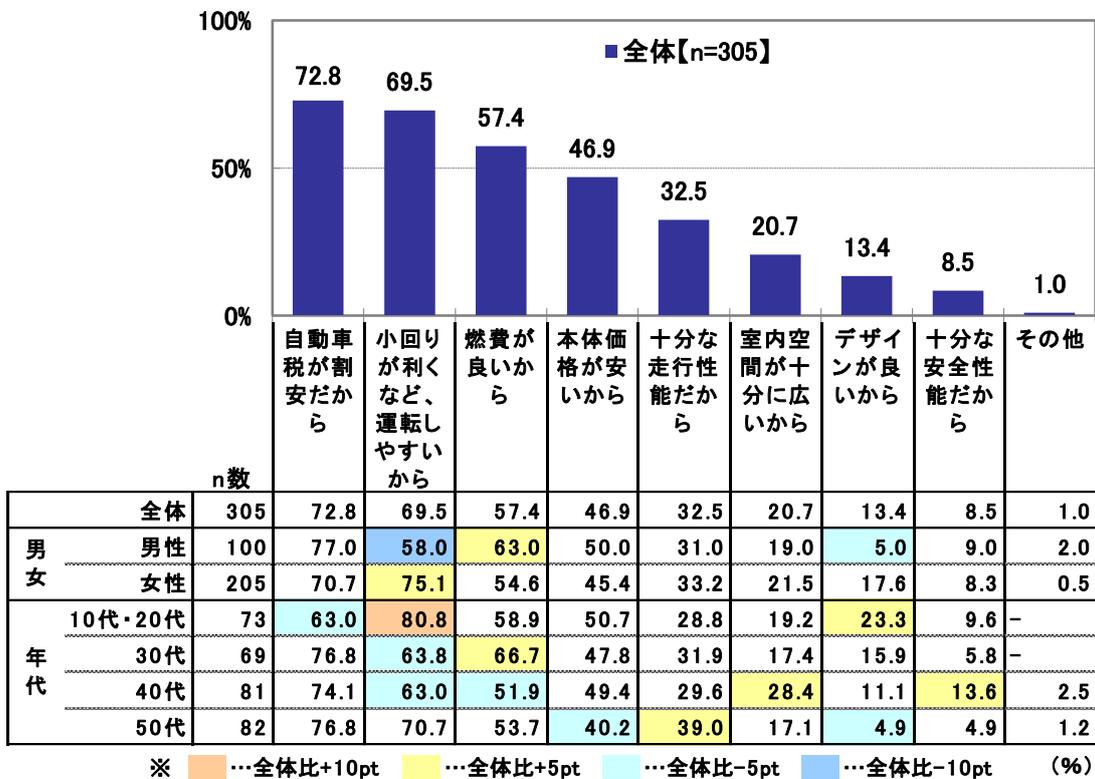
※現在のボディタイプでn数が少ないものは表示を省略

(図 17)

◆次に車を買替える時に軽自動車を選ぶ理由

※複数回答形式

※対象：次に車を買替える時に軽自動車を購入したい人

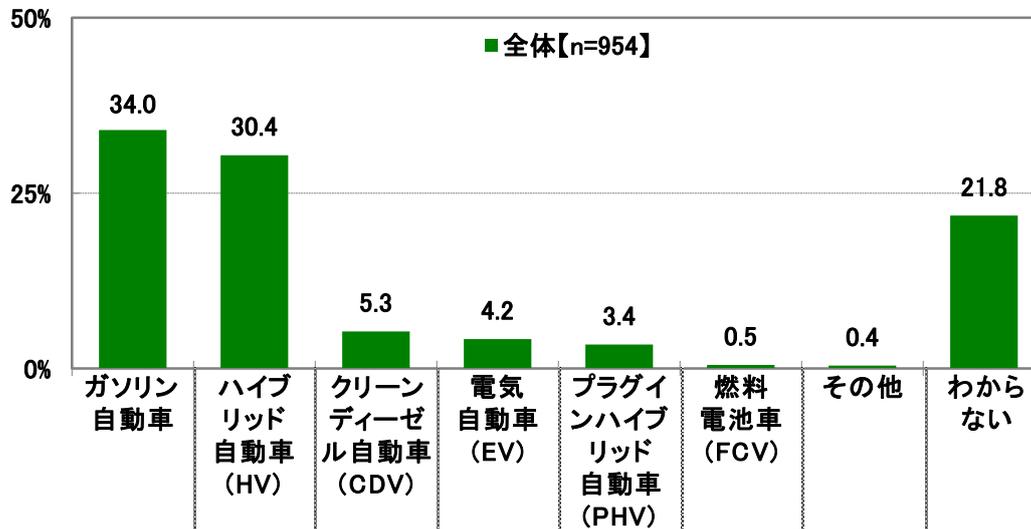


(図 18)

◆次に車を買替える時に購入したい車の燃料(エンジン)タイプ

※単一回答形式

※対象:車を買替える予定がある人



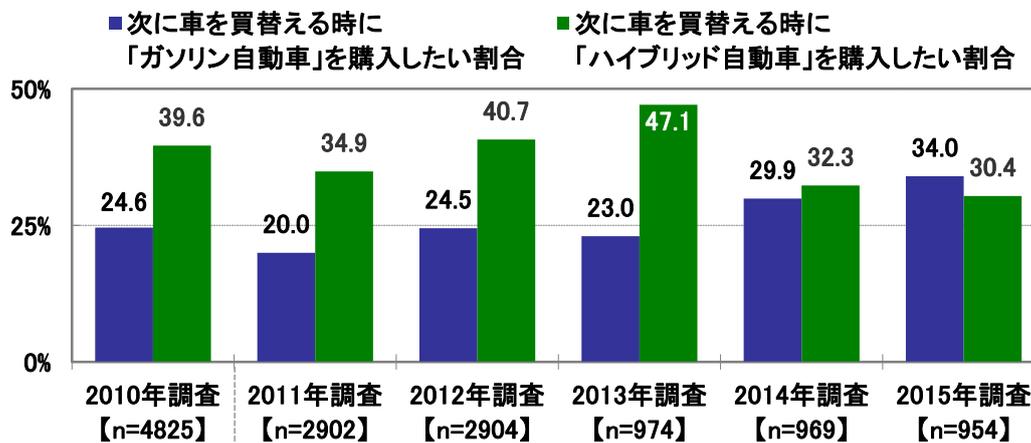
(図 19)

◆次に車を買替える時に「ガソリン自動車」「ハイブリッド自動車」を購入したい割合

【2010年～2015年:経年比較】

※単一回答形式より抜粋

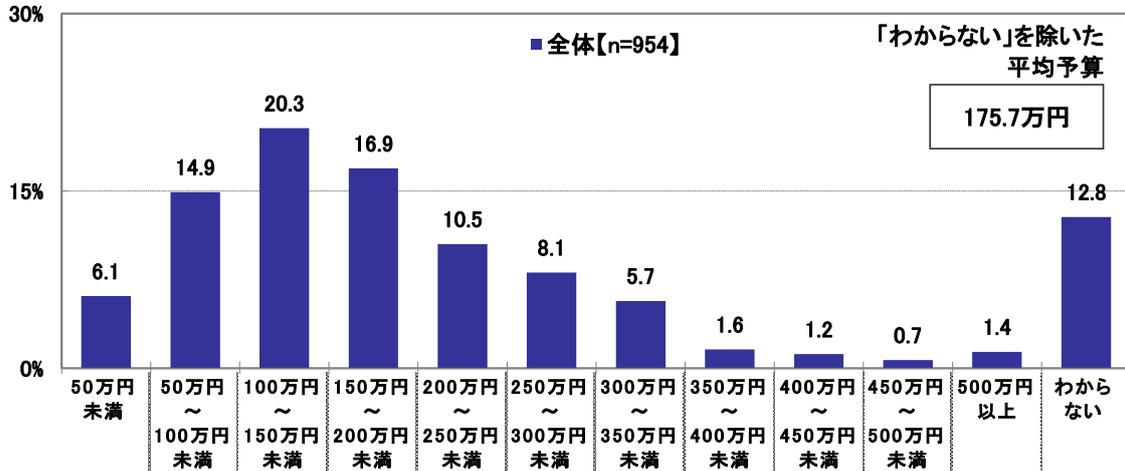
※対象:車を買替える予定がある人



※2014年調査から当該設問では下記の選択肢を追加している。  
「クリーンディーゼル自動車(CDV)」「プラグインハイブリッド自動車(PHV)」「燃料電池車(FCV)」

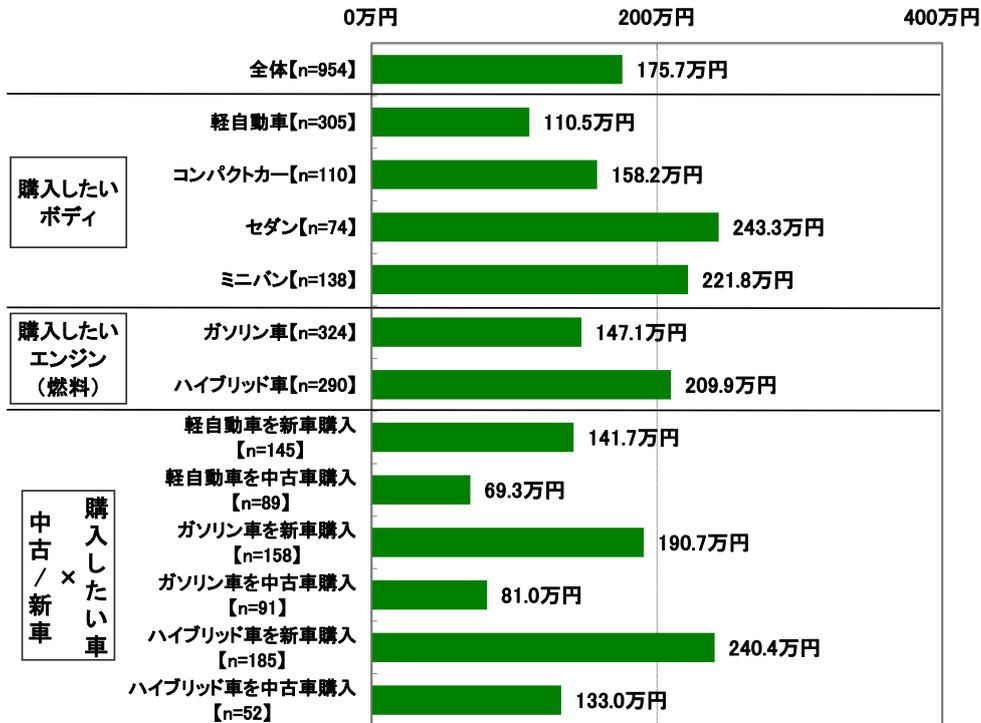
(図 20)

◆次に車を買替える時の車体本体価格の予算  
 [諸経費(自動車税、自動車取得税、自動車重量税など)は除く]  
 ※単一回答形式  
 ※対象: 車を買替える予定がある人



(図 21)

◆次に車を買替える時の車体本体価格の平均予算  
 [諸経費(自動車税、自動車取得税、自動車重量税など)は除く]  
 ※単一回答形式より集計  
 ※対象: 車を買替える予定があり、予算がわからない人を除く

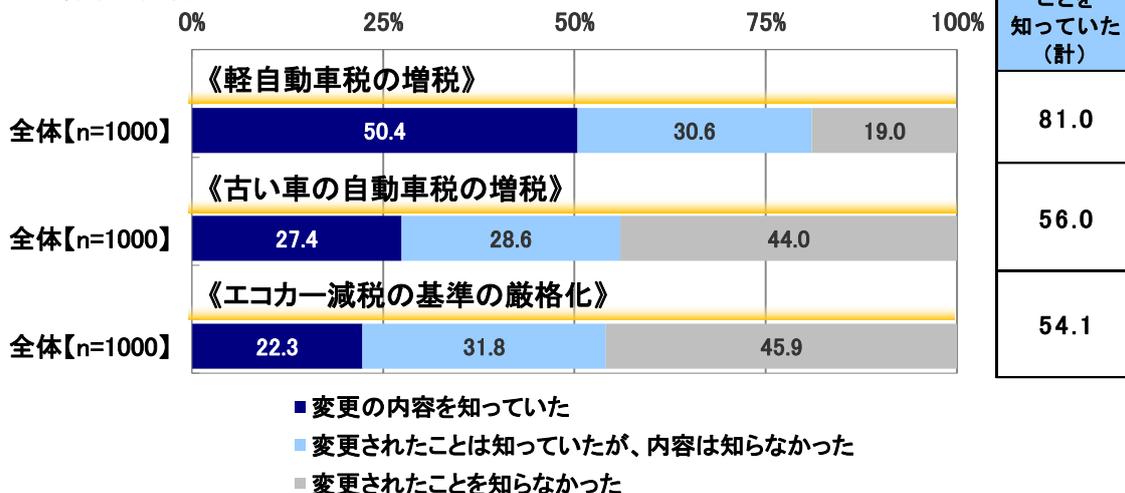


※n数が少ない購入パターンは記載省略

■ 平均予算

(図 22)

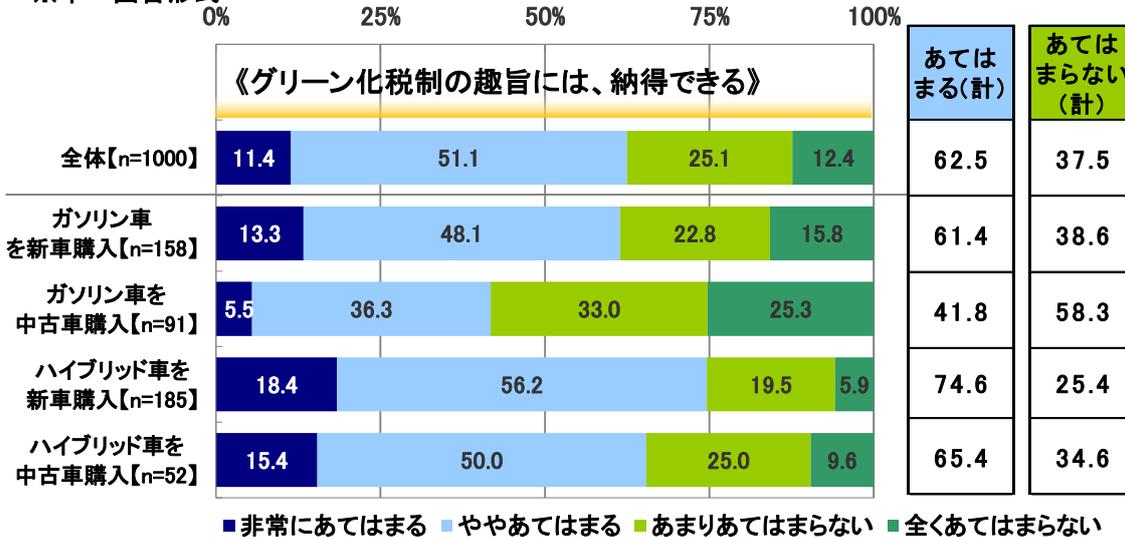
◆グリーン化税制について、知っていたか  
※各単一回答形式



※各質問項目の変更内容について、説明を行ったうえで聴取

(図 23)

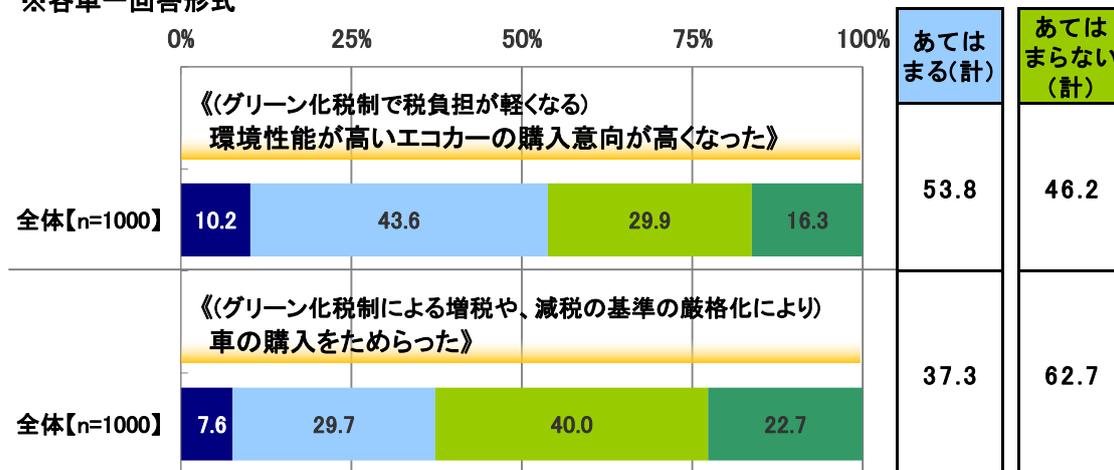
◆グリーン化税制の趣旨について、どの程度あてはまるか  
※単一回答形式



※グリーン化税制の趣旨について、説明を行ったうえで聴取

(図 24)

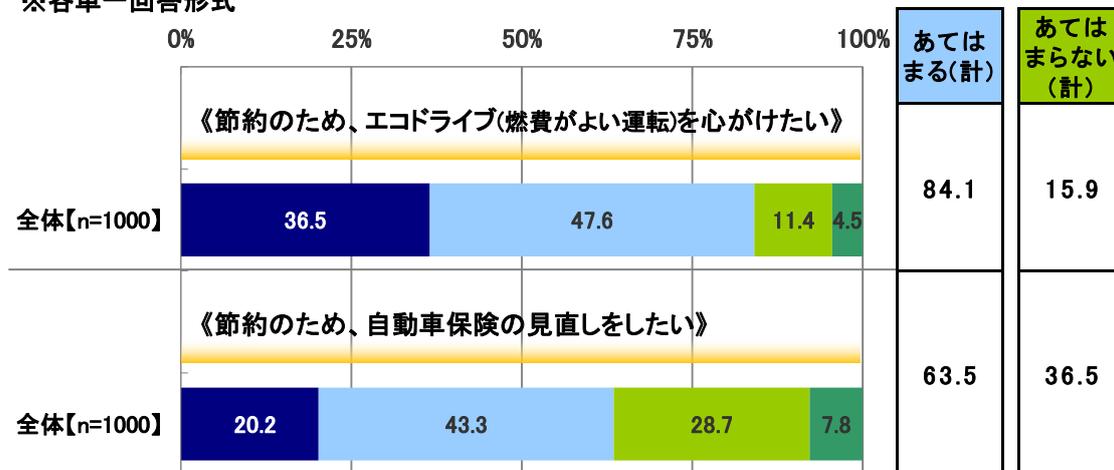
◆グリーン化税制の買替えへの影響について、どの程度あてはまるか  
※各単一回答形式



■非常にあてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■全くあてはまらない

(図 25)

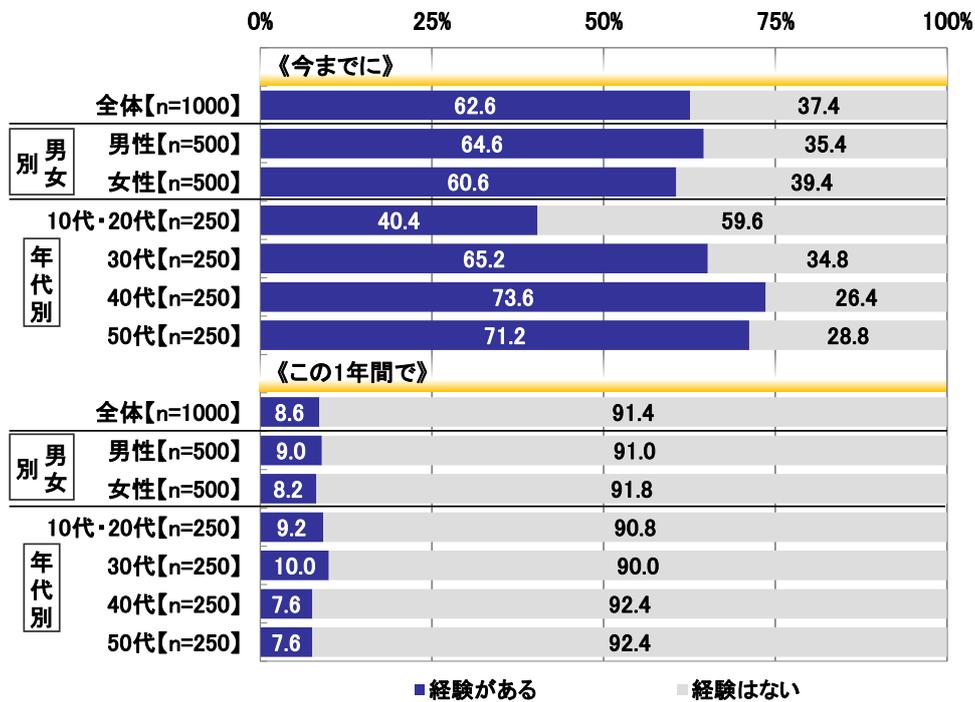
◆グリーン化税制のカーライフへの影響について、どの程度あてはまるか  
※各単一回答形式



■非常にあてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■全くあてはまらない

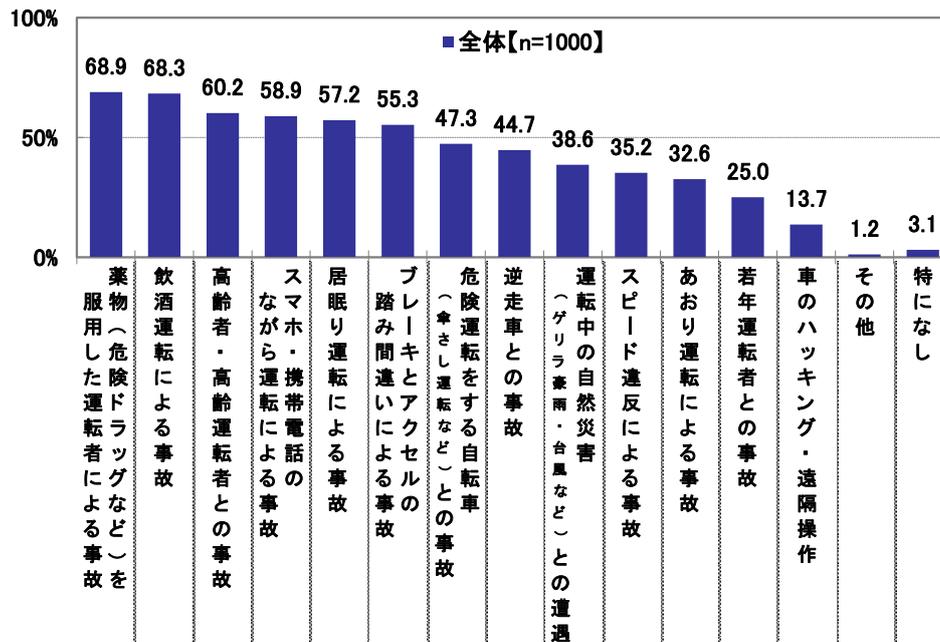
(図 26)

◆自分が運転をしている時に自動車事故に遭った経験  
※各単一回答形式



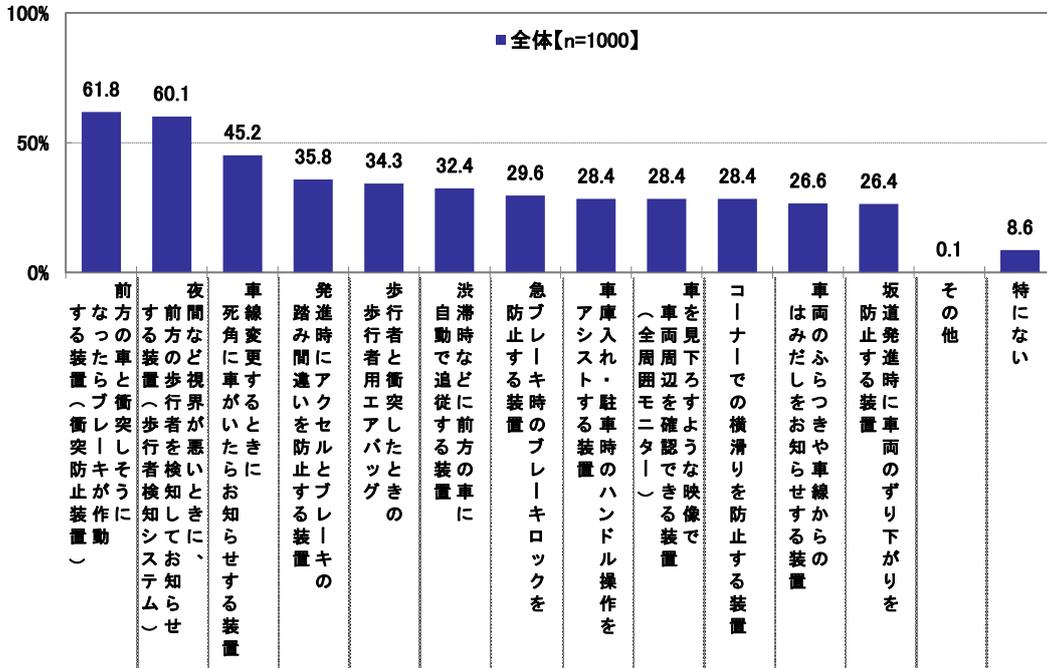
(図 27)

◆車社会で過ごすなかで、最近恐怖を感じること  
※体験したことに限らず、ニュースなどで知ったことを含む  
※複数回答形式



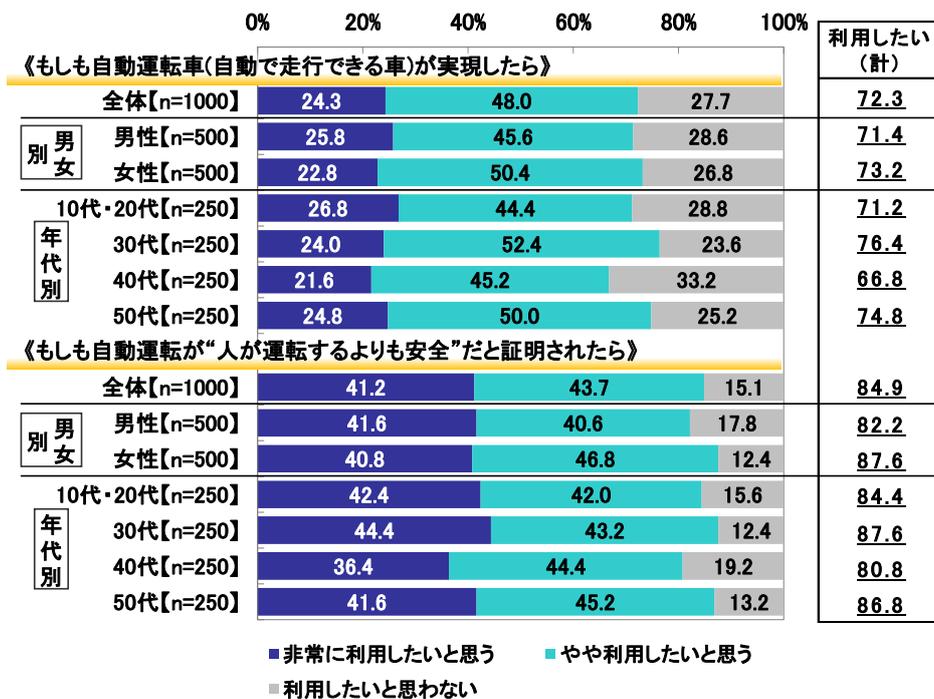
(図 28)

◆車に付けたいと思う運転支援システム  
※複数回答形式



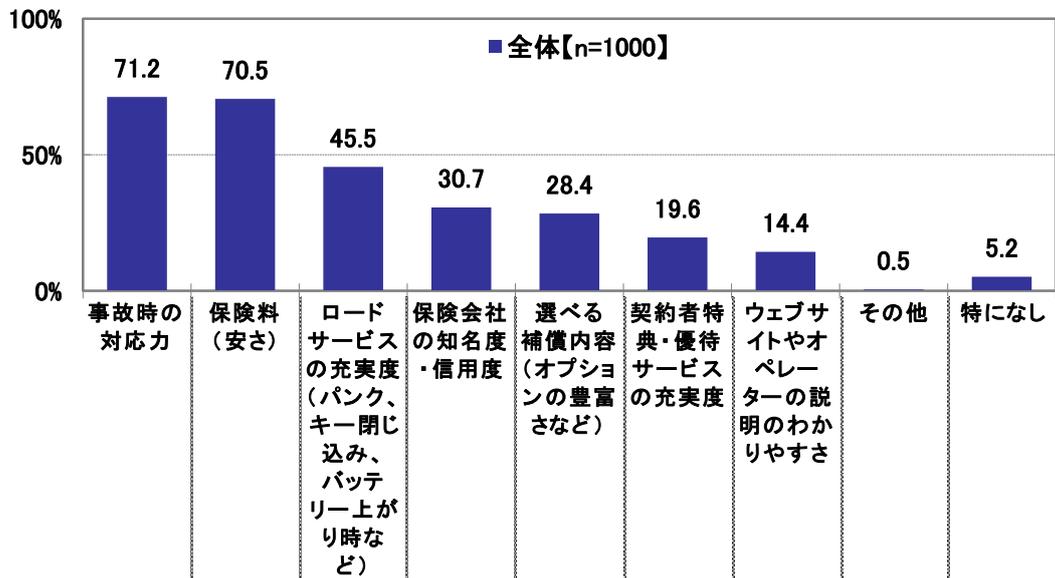
(図 29)

◆自動運転機能を利用したいと思うか  
※各単一回答形式



（図 30）

◆自動車保険（任意保険）を選ぶ時に重視するポイント  
※複数回答形式



## ◆調査概要◆

- ◆調査タイトル：2015年 全国カーライフ実態調査
- ◆調査対象：ネットエイジアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする  
自家用車を所有し、月に1回以上車を運転する18歳～59歳の男女  
(18歳～20代・30代・40代・50代 男女各125名)
- ◆調査期間：2015年9月12日～9月18日
- ◆調査方法：インターネット調査
- ◆調査地域：全国
- ◆有効回答数：1,000サンプル（有効回答から1,000サンプルを抽出）
- ◆実施機関：ネットエイジア株式会社

調査協力会社： ネットエイジア株式会社

## ■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、「ソニー損保調べ」と付記のうえご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

## ■■本調査に関するお問合せ窓口■■

ソニー損害保険株式会社 ダイレクトマーケティング部 松田 安弥美  
TEL : 03-5744-8755  
Eメール : matsuda-a@sonysonpo.co.jp  
受付時間 : 9時～17時30分(月～金)

## ■■会社概要■■

会社名 : ソニー損害保険株式会社  
代表者名 : 代表取締役社長 丹羽淳雄  
設立 : 1998年6月10日  
(ソニーインシュアランスプランニング株式会社として設立)  
所在地 : 東京都大田区蒲田 5-37-1 アロマスクエア 11F  
業務内容 : 損害保険業

ソニー損保のスローガンは『“Feel the Difference”～この違いが、保険を変えていく。～』です。  
お客様にとって価値ある「違い＝Difference」をビジネスのあらゆる領域において創造し、お客様に提供  
していこうという私たちの意思を表しています。

また、お客様にとって少しでも価値ある情報を提供できるよう、「[お客様とソニー損保のコミュニケーションサイト](#)」を設置して、[お客様の評価\(みんなの満足度\)](#)や[お客様の声\(コエキク質問箱\)](#)、[担当者の取組み\(コエキク改善レポート\)](#)、[保険に関するさまざまな情報\(保険なるほど知恵袋\)](#)を提供しています。  
ソニー損保ならではの違いを感じていただければ幸いです。

会社および商品の詳細は <http://www.sonysonpo.co.jp/> をご覧ください。